



グループワークに積極的に参加して  
実際に活動しているクライアントに  
提案を行うことで自身が付きました

システム理工学部 環境システム学科  
4年 陣内宏太さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：インドネシア・バンドン工科大学

このプログラムの内容は、インドネシアの東大、バンドン工科大学の学生と一緒に、現地で実際に活動している企業に対して業務の改善提案を考案してプレゼンテーションを行うことです。期間は最終発表を含めて8日間。発表までに2回の発表練習と2回のインタビュー、統計的な手法を学ぶ授業、バンドン市の視察など、非常に過密なスケジュールでおそらく人生で一番充実していた8日間だったと感じています。

現地のバディとは朝ごはんから晩御飯まで共に過ごし、議論をして自分たちの提案の作成を行いました。バディは常に一緒にいてくれて、移動手段の確保から食事をする店舗の予約、インドネシア語の通訳が必要になった時の通訳まで行ってきて非常に助かりました。非常に短期間のプロジェクトだったにもかかわらず仲良くなることができました。

プログラムについては、自分たちのクライアントに実際に会って話を聞くことがとても刺激的でした。今までシステム工学演習の授業で仮想の対象に対して提案を考えてプレゼンテーションを作成することはありましたが、今回のように実在するクライアントに対して提案を行い、感想を受け取ることはありませんでした。非常に大きなプレッシャーになりましたが、自分たちが最善を尽くすことが出来たことと、クライアントの反応が非常に良かったことから大きな自信になりました。

英語の学習については、初めのほうはインドネシア特有の訛りに非常に苦戦しましたが、非常にたくさん話したことで、わからないことがあつたらすぐ聞き返すことを徹底したことで3日目にはスムーズに聞き取れるようになり、周りの班のメンバーがうまく意思疎通ができないときに通訳を担当することが多くなったので、英語力の向上が実感できました。総合的にこのプログラムに参加することが出来てよかったです。



海外の学生とのコミュニケーションはとても楽しかったです。留学を通して、語学勉強をやりたいたいと思うようになりました！

システム理工学部 電子情報システム学科 3年  
高田晃大さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： インドネシア・バンドン工科大学

参加を決めた理由は、テクニカルセミナーで参加していた研究室の先生に誘われたのがきっかけでした。誘われた当初は留学の時期が就職活動の時期と重なっていたため迷ったのですが、自分は海外に行ったことがなかったので、行ってみようという前向きな気持ちで参加することに決めました。

滞在期間中は、9日間にわたってインドネシアの企業が抱える問題を解決するというところを行いました。4人班で構成され、実際に企業に訪問をし、問題点を聞くというところから始まりました。インドネシアの学生とコミュニケーションを取りながら一緒に問題解決に取り組みました。最終的には企業にプレゼンテーションを行いました。英語にはあまり自信がなかったのですが、英語でのプレゼンテーションは自分にとって良い経験をする事ができたと感じています。

短期間のプログラムでしたが、自分にとってはとても良い経験ばかりでした。これまで英語はあまり好きではなかったのですが、インドネシアの学生とコミュニケーションを重ねるうちにもっとしゃべりたい、英語を勉強したいと感じるようになりました。また、実際の企業の抱える問題を解決するという普段の授業では決して味わうことができないような経験をする事ができました。さらに、今回の留学を通じて、一緒に参加した同学年の学生や先輩方、グローバルPBLに参加したインドネシアの学生とも仲良くなる事ができました。とても充実した日々だったと感じています。また機会があれば参加したいと思っています。



## 積極的に他人と関わる能力を養えました

システム理工学部 機械制御システム学科 4年  
家田雅之さん

### 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：インドネシア，バンドン工科大学

僕は将来海外で仕事をしたいと考えていたので、今回のgPBLは海外での生活がどのようなものなのかを体験する良い機会になりました。現地の学生はとても優しく、PBLが終わった後、毎日のように現地のレストランに連れて行ってくれました。僕は人と話すのが大好きなので、彼らに「インドネシアの大学生はどんな毎日を過ごしているのか」、「休みの日は何をして過ごしているのか」など様々なトピックについて聞きました。そして、日本の生活との違いやインドネシアならではの文化について知ることができました。僕のつたない英語を熱心に聞いて理解しようとしてくれる姿勢には、感謝するとともに僕もそうありたいと思わせてくれました。くだらない冗談を英語で言ってみんなが笑ってくれた時は、日本で友達と会話している時のような気分になり、幸せでした。

また、彼らの能力の高さにも驚かされました。今回一緒にPBLを行ったバンドン工科大学（ビジネス専攻）では、授業の学期末テストに加え、プレゼンがあると聞きました。そのせいか、皆パワーポイントなどのツールを使いこなしており、プレゼンテーションに向けてとても分かりやすい資料を作成していました。また、発表の際、日本人学生は用意した英語の原稿を読んでいたにもかかわらず、現地の学生は資料を見ることなく流暢に英語で発表をしていました。

自分も現状に慢心することなく、志を高く持ち、日々彼らのように成長したいという意識を持つようになった点においても、今回のPBLが有意義であったと感じました。



ビジネスと工学の融合を体験することが出来ました。

システム理工学部 数理科学科 4年 山中 宏幸さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： インドネシア ITB

今回のPBLでは、バンドン工科大学でビジネスや起業方法を学ぶ学生2人と日本人2人の4人1チームで現地の小さな紳士靴メーカーの売り上げを伸ばす施策を考え、提案するというものでした。

私はこれらの体験を通じて2つのことを学びました。1つ目は、技術や考え方をビジネスの現場に応用する障害の高さです。現地の学生は専門を生かし、フレームワークを用いた分析を、私たちは企業から頂いたデータの分析をしました。ある程度の基本的な手順は学んでいたつもりでしたが、実際の現場では教材や教本のように理想的な環境やデータは揃っていない、それらを分析する前段階の情報やデータの整形に非常に手間を取り、理想的なスケジュールで作業を進めることが難しかったです。今後の学習において、どこに重点を置くかの配分が明瞭化されたように感じます。

2つ目としては、アウトプットとしての英語力の重要性です。今までの受験対策の英語学習では英語の情報をインプットすることに特化したものでした。しかし、現実ではそれ以上に相手に自分の考えを伝えることが重要です。どれだけ素晴らしいアイデアを考えついても相手に伝えることが出来なければ価値はなくなります。発信することの重要性に気づけたことは財産になりました。





研究に必要な知識と英語力のどちらも得ることができました。インドネシアをより身近に感じることができました！

システム理工学部 電子情報システム学科 3年  
内藤 竜聖さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： インドネシア・バンドン工科大学

私はデータサイエンスを用いて社会的な問題を解決する研究室に在籍していて、データサイエンスの勉強をしたいと思っていました。バンドンPBLでは現地の方から受け取った生データを用いてデータサイエンスのスキルを磨くことができ、更に現地の学生と一緒に作業を進めることにより英語力も高めることができると聞いて一石二鳥だと思い参加することにしました。バンドンPBLは、11日間という比較的短期間のプログラムではあるものの、最終日に発表があることに対してスケジュールはかなり詰められており、短期集中でデータサイエンスの技術と英語力を高めるにはベストと思ったことに加えて、現地のインドネシアの学生との交流が充実しているためです。

滞在期間中は、問題の解決を依頼してきた中小企業に、どのような問題を抱えているのか質問し、現地でビジネスを学んでいる学生と一緒に問題の解決方法を考えました。コミュニケーションはすべて英語を用いて行われました。自分の意見を述べたり、テーマにそってディスカッションしたり、協同でプロジェクトを進めたりする機会が多くあり、そのような力を養うことができました。また、日本に対して興味や関心を持っている学生が多く、何気ない話をしても喜んでくれるので楽しく会話することができました。

短期間のプログラムでしたが、得られたものは大きかったです。バックグラウンドの異なる友人達とどう物事を進めていくかという国際的な感性を身につけられたことなど、数値化できない学びもたくさんありました。一緒に参加した芝浦の学生とも、今回の留学がきっかけとなって学部、学科、学年を超えた友人をつくることもでき、帰国後の学生生活も参加前と比べてより充実したものとなっています。気候もそうですが、現地の大学について早々昼食をごちそうしてもらったりと、歓迎も温かいものでした。リフレッシュしたい人はいかかでしょうか。